

馬とともにふるさとの森を 守り続けて四十三年

見方芳勝さん

みかた・よしかつ 附馬牛町 65歳



平成十九年度森の「名手・名人100人」に選ばれた見方芳勝さん。木が生い茂る森の中で馬を巧みに操り木材を搬出する「地駄曳き」を四十年間続けている。かつては盛んに行われ、多くの担い手がいた地駄曳きだが、木材の価格低迷や作業の機械化が進み、市内では見方さんを含め三人を残すのみとなった。

「機械は山を壊してしまうから、地駄曳きじゃないと作業を頼まないって人もいるんだ」と話す見方さん。「穏やかな性格で、力は抜群」と評する愛馬「エビスシヨウリュウ(六歳)」とともに山に入る。切り倒した丸太が散在する杉木立。道なき道を一步一步確かめながら歩を進める。「馬はただ引張ればいいってものじゃないからね」と、自分が先に立ち、地盤の状態はもちろんのこと馬の性格や力量、呼吸を確かめながら斜面を登り丸太を集めていく。農業を営む見方さんにとって農閑期となるこれからの季節が地駄曳きの本番。冬は寒さが厳しいが、作業を邪魔するアブや蚊がいないうえ、雪で木材が運びやすくなるため効率上がる。

「鳥のさえずりや川のせせらぎを聞きながら作業する地駄曳きが、自分には一番合っている健康でいる限り続けていきたい」。額を流れる汗をぬぐいながら笑顔で語った。

●森の「名手・名人」
(財)国土緑化推進機構が国土緑化運動の一環として認定。きこりや造林手、炭焼き、山菜採り、船大工など、森と関わり日本人が伝えてきた知恵や技、心を、自身の経験とともに受け継いできた人たちの顕彰する。

出産や子育てに不安や負担を感じていませんか？
 安心して産み、育てられる地域はみんなの願いです。
 子どもたちの元気な声と家族の笑顔をもっと増やしたい。
 さあ、今こそみんなの手でお産文化復活のときです。

復活 [特集] 遠野のお産文化

写真=たくさんの愛情に包まれて、10月27日に誕生した多田早嬉ちゃん